

はしがき

国際言語文化研究科が誕生して5年が経とうとしている。5年というのは1つの節目でもある。本誌『言葉と文化』は研究科誕生の1年後に刊行を始めたため、今回お送りするのは第4号である。また、この節目に時期を合わせるかのように文系総合館も完成した。研究の条件は徐々に整いつつある。

しかし、条件が整っても、中味のともなわない研究科ならば衰退してしまう。幸い、大学院生の研究は年々盛んになってきている。これは本誌を初めとする研究誌への投稿数、掲載数からも見て取れる。本誌とは性質の異なる『ことばの科学』や各種学会誌への投稿数を合わせるとかなりの数になる。論文の中味も充実してきている。研究発表のあらゆる機会を利用して実績を作り、立派に社会に飛び立って行ってもらいたいものである。

2003年2月10日

『言葉と文化』第4号
編集担当 小坂 光一